

第1回東海村農業振興計画策定委員会会議録

1	開催日時	平成26年11月14日(金) 13時30分から15時30分まで
2	場所	役場行政棟5F 原子力視察研修室
3	出席者	岩田委員, 小林委員, 川崎委員, 照沼委員, 永井委員, 佐藤委員, 根本(一)委員, 鈴木委員, 清水委員, 根本(正)委員, 藤戸委員, 佐藤委員, 内藤委員, 小泉委員, 田中委員, 川上委員, 砂金委員, 仲田委員, 菊池委員, 糸賀委員, 黒田委員, 石井委員 (22名)
4	欠席者	石橋委員, 和田委員, 堀江委員 (3名)
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	
7	議題	(1)正副委員長の選任について (2)農業振興計画の概要について (3)今後の進め方について
8	配布資料	委員会設置要綱, 委員名簿, 東海村の農業について, アンケート調査の結果について, 農業振興計画について, 今後のスケジュールについて
9	発言内容	(1)正副委員長の選任について ・特に意見なし。 (2)農業振興計画の概要について ・農業の多面的機能を重視すべき。 ・農産物を売れる環境を整えることが重要である。 ・本村農業は地産地消の推進が必要ではないか。 ・販売額が伸び悩むなかで, 新技術を導入してコストダウンを図らないと農業は立ち行かない。 ・村の農業は干しいもをメインにし, 販売方法と品質向上で売り上げを伸ばすことが可能である。 ・梨を栽培しているが後継者がいない。このままでは10年後には生産をやめざるを得ない。 ・ブドウは庭先での直売が中心で, 若い人が新品種に取り組むなど意欲的な者も多い。しかし, 周辺の宅地化が進行して環境問題も発生している。 ・国は米の大規模栽培を進めているが, 条件の良い場所でないとう経営は困難。魅力ある農業が課題。 ・消費者と生産者にとって利用しやすい直売所の在り方を考える必要がある。観光農園等で農業の楽しさを知ってもらう取組みも必要なのではないか。 ・生産者が一所懸命に生産しているのだから, 消費者

	も栽培方法等を勉強して、互いに結びつきを強めることが重要。 ・消費者の方に，地元の農産物を食べることがエコ活動という認識を持っていただきたい。相互の理解を深めて地産地消を確立させたい。 ・量販店などでも，地元農産物コーナーを設置するなど販売側にも工夫を求めては如何か。 ・販売する立場としては，生産者との接点がないのが悩み。連携の方法を模索している。 ・アンケート結果から興味ある結果が読み取れる。農家と消費者のマッチングが課題。 ・米価が安いと嘆いている農家が多いが，美味しい米は高く売れている。これまでの手法を大きく変えて農業に向き合うことも必要ではないか。 ・振興計画を作成しても実践が重要。進捗管理を適切に行うべき。
10 結 果	(1) 正副委員長の選任については，委員長には川上美智子委員，副委員長には小林健委員が選任された。 (2) 農業振興計画の概要については決定され，次回の委員会において骨子案を協議することとなった。 (3) 今後の進め方については原案どおり決定された。